

認定第1号「令和5年度大月市一般会計歳入歳出決算」認定の件について、日本共産党の反対討論を行います。

もとより、市政運営全体を否定するつもりも軽視するつもりもありませんが、ここでは、中期財政見通しを作成せずに大規模事業を進めようとしていることに対し、警鐘を鳴らすとともに、財政運営と市政運営に対し、異議を申し立てたいと思います。

決算収支は、監査委員の審査意見書の通り、実質収支で、令和3年度が7億740万円、令和4年度が8億191万円、令和5年度が7億9193万円の黒字であり、実質収支比率は約10%で推移しています。全国平均が4・7%ですから、単年度を切り取れば大月市は財政にずいぶんと余裕があります。しかし、近隣市では当たり前の行政サービスが大月市では行われていません。大月市では、学校給食費の完全無償化がようやく令和7年度から実施の見込みとなりましたが、都留市、上野原市ではすでに実施しています。带状疱疹ワクチン助成もしかり。コロナや物価高騰対策での全住民向け支援策でも随分差が出ました。財政状況をみれば、「お金がないからできない」は通用しません。大月市は市民の厳しい暮らし向きに真摯に向き合ってほしいと思います。

それでは小林市政は、財政に生まれた余裕を何に使ってきたのか。私が口を酸っぱくして提言しても、臨時交付金が無ければ新規の子育て支援策はしません。財政当局に押し切られているようにも思いましたが、市は借金を返し、基金に貯金してきました。令和3年度は借金7・4億円を返済し、貯金9・4億円、令和4年度は借金6・5億円返済し、貯金4億円、令和5年度は借金12・2億円返済し、貯金2・7億円。令和3～5年度の3年間で、借金は26・1億円減らし、基金への貯金は16・1億円増やしました。ふるさと納税が全国的に広がり、都市部の自治体では本来の税収が大幅に減収し住民サービスに影響が出かねないとしていますが、大月市では令和3～5年度で15・9億円のふるさと大月応援寄付金をいただき、現状で財政に大きく寄与しています。全国には、ふるさと納税を活用し子育て支援策を抜本的に強化して、子育て世帯の移住に成功している自治体もありますが、大月市ではそこまでの金額には至っていません。

大月市では今後、市役所本庁舎の建替え、別館や花咲庁舎のリフォーム、初狩保育所の建替え並びに、大月駅・猿橋駅周辺整備事業など大型事業が予定されていますが、小林市長はここで、道の駅についても本格的に検討したいとしました。基金の貯金が増えたことで、今度は急に気が大きくなったような印象を受けました。そうであるなら、中期財政見通しを作成し、今後予定されている事業や退職時期を迎える職員の退職手当、人口減など今後起こりうる影響を考慮して5年間程度の財政計画を市議会に示すことが必要です。借金返済にしても、市役所本庁舎の建替えにしても、中期財政計画に位置づけて、市議会や市民が検証できるようにしてこそ市民参加も得られます。市民はただ我慢するだけ、財政健全化の実績は市長のものというのでは、まちづくりの一体感は生まれません。財政運営の是正を強く求めます。

次に、大月ブランドをどのように認識して、確立していくかについてです。70周年記

念事業等について意義は強調されましたが、小林市長から大月市の何が素晴らしいのか、これからどんな大月市を作りたいのか、そのために市民はどのように協力したらよいかについて、得心のいく話を聞いていません。第8次総合計画に示したと言いますが、心に響いてこないのは私だけではないと思います。2度の市長選挙でマニフェストが示されず、小林市長は何をしたいのか、市民はどう協力すればよいかの不明確なまま、市政運営がなされているように見受けられます。

私は、大月市の素晴らしいところを次のようにとらえています。一つは、地域のお祭りなど地元の人が大切にしている、恵みに感謝する精神風土や仲間の絆、二つは移住者視点で分かる素晴らしい立地や自然環境、三つは大月・ビックムーンという強い名前です。

大月ブランドをどう確立するか。地域の課題解決をまちづくりの指針にします。例えば、大月市でも農業は、農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加など、さまざまな問題を抱えています。そこで今、働く場を求めている障がい者などと連携して農業を守っていく取り組み「農福連携」が注目されています。そこで作り出された加工品、例えばクラフトビールが生み出されれば地域ブランドを構成し、販売リスクは伴いますが、挑戦する地域としてお立ち台に上がることとなります。一部の成功は他のねたみを生むだけに、共産党も自民党も公明党も無所属も一緒の超党派で取り組む「オール大月」で始めることが肝心です。市政70周年にあたり、大月市民の自尊心をかきたてる実践とともに汗をかこうではありませんか。

ひるがえって、小林市長には市政運営で、特に大月ブランド確立に向けたビジョンやリーダーシップが欠けていると思います。耳の痛いことを申しましたが、より良くするために、さらなる奮起を求めます。以上